（明治三十二年十二月十七日第三種郵便物認可）（日刊）月曜及祭日之翌日休刊　明治四十四年七月三十一日（火曜日）　第七百四十四號（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 一ヶ月金三十錢 三ヶ月金九十錢 六ヶ月金一圓八十錢 一ヶ年 ……
廣告料 五號活字十七字詰一行金 …… 特別 ……
月曜日及び祭日の翌日は休刊
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久勝一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社
仁川支局 仁川宮町三丁目
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

雜報

水害地の(其後)現況

△忠淸北道 に於ける重なる被害地は淸州、扶川、槐山、文義の各郡及び鳥致院市場、報恩等なるが特に救助を與ふるの要なし

△忠淸南道 に於ける重なる被害地は扶餘、論山、太田、連山、公州、魯城等にして罹災民中論山にて目下三名の救助米を郡衙より受け居るの外各縁故ある者に寄食するを以て差當り衣食住に差支なし

△全羅北道 に於ては萬頃江流域に沿ひたる全州郡大場村理里附近咸悅郡臨陂郡の一部金溝郡「タニピョニリ」附近の被害を最多とし次は東津江流域中泰仁郡禾湖附近、古阜、扶安、金堤各郡とす罹災民に對しては警務部長は道廳と協議し救濟し居れるが住家を失ひたる細民に在りては小屋掛等にて辛くも雨露を凌ぐあり又富豪親戚の惠により漸く生命を保つ者あり而して警察憲兵にては出水中、食事の供給避難者の救護方法に努め減水後は夫々自治の途を講ぜしめ漸次恢復を圖りつゝあり

△全羅南道 に於ける被害は榮山浦警察署管內を第一とし長興、康津、長城之に次ぎ罹災民中少數を除くの外水害のため直に糊口に窮する者なし被害田畑回復の見込あり

△慶尙南道 に於ける重なる被害地は釜山府左耳面、鎭浦、三樂洞、柳斗洞、三浪津警察署所在地附近、馬山府大山面村井島橋、金海郡大上、大下兩面、密陽郡德村(內地人農村)梁山郡附近等にして鎭浦外二道は罹災民の一部里民の保護を受け居るも公の救助を要せず金海郡も里民にて救助し居れども目下郡廳より道へ救護方照會中なり[illegible]救護の要なしと云ふ

△慶尙北道 に於ける重なる被害地は醴泉、靑山、新寧、榮川等の各郡にして罹災民の救助を要すべき者甚しき被害を認めずと云ふ

△咸鏡南道 に於ける重なる被害地は永興、高原の二郡にして被災戶數は三十戶家族約百四十人なるも多くは親戚故舊に依り糊口を凌ぎ居れり又費に對し三百人三日分の救助經費を支出したるも今日迄に救助せられたるものは五月二十人に過ず

△平安北道 に於ける重なる被害地は新義州附近の鴨綠江の島地及大寧江々岸「キウシン」及其附近龍川郡揚市附近龜城、郭山、宣川の各郡の一部とす義州附近寧邊定州郡は既に平常に復せり罹災民の多くは親戚知己に保護せられ新義州方面に於ては差當り生活に窮する者を認めず農作物は全道を通じて二割減の見込なりと云ふ而して郡部にある農作物の減收のため將來困難すべきも差當り救助を要するもの僅少なりと

△平安南道 に於ける被害の主なる箇所は平壤及其附近並に安州、成川、太平洞との罹災民中家屋の流失破壞のため住所なきもの百戶浸水のため他に寄食又は救助を受けつゝあるもの四百戶あり小雨通々窮狀見るに忍びずと云ふ而して平壤に於ける被害は未だ充分なる調査を遂げざるも概況左の如し
內地人の救護人員一、四九〇、浸水家屋四三九、流失家屋一、全倒及半潰家屋一八、破損一五一、鮮人の救護人員一、六七四、浸水家屋一八、全倒及半潰家屋三七五、破損二七八、溺死一なりと云ふ

出代　妙子の兄

五月の中旬であつた、足掛四年も勤めて居て呉れた女中のおかめは嫁に行く先が定つたから何うかお暇を頂きたいと親許から申し入れて來た、大旦那樣方には御承知の事でと申添ねて、でなくとも不承知を唱へる筋合のものでないのみならず甚だお芽出度い事として承知はした、が此所に困つたことには今月の給金は遣つてあると云ひ條此の不景氣な土地の、取り分け不景氣な面目なるべき女中の身で四年も勤續したと云ふのだから何んとか獻酬しなくては成らん、と考へたことは考へたが全體何うすれば好いか一寸分別が着かぬので千代子と妙子と僕とは會議をした。千代子曰く。

「實節に反物の一疋も添ねて、お禮しにしたら何うでしようか」

「とすれば一寸三十五六圓だな」と首を捻ると、妙子は夫れを引き取つて。

「反物は何でしようが、簞笥はモウ買つてしよ乾度、ならッてた簞笥はモウ買ひましたかッて聞くのも變だし」と不贊成らしい。

「夫れも左樣ね」と千代子も當惑する此れ以上の腹案が無いのだ。

「とすると妙の考へは」

「妙の考へ?」と咽喉をコロ〳〵と鳴らして笑ひ乍ら「お金で遣つた方が便利でしよう、好き〳〵な物が買へるから」

誰れも此れには異議が無つた。

雜錄

◎病床より(一)　花眠庵主人

◎病床より一筆呈上

道廉な病氣なら一層死んだが氣樂……と覺度か自分は想ふた然し「死んで什うるものなだやら」と顧ひ返せばさりとて死ぬ氣にもなれず未練、執着し矢張生のある限りは四苦八苦して見たい樣な氣にもなる

◎病床に臥し醫藥に親しむでから恰度三週間前途程遠しとやら寢て許り居るから骨の節々が妙に痛むで手足は厭やに重く神經はいよ〳〵過敏に逆者なのは口前許り精糠の妻には朝から晩まで小言たら〳〵日はれても苦い顏一つ見せずに眞實〳〵敷く良く働らき自分ながらよく道廉に……と思ふ位然し病氣の爲か氣が向かないと直ぐ腹が立ち無精に叱りたくなつてポカリと一つ參らせ候も何の返事も梨の礫?、開化の御代でも殺らぬものは惠比壽、大黑福の神、辛抱な女房のポンポコなポコポンポコと來る

◎さりながらさりながら孤燈の下に看護に疲れ痩せ切つた妻奴寢顏を眺めては一種言ふべからざるインスピレーションに打たて妙な感慨が胸の裡にシクシク湧で來る是れでも憫ながら一つの夜着の屈を覗き合つた八年越しの夫婦じやもの

◎過古は夢目の先はうつゝ未來は茫せして漂渺なし、屈指して恰度八ツ櫻咲く嬉月頃を迎ふたのは其時の事を想ひば今論文士の句調を借りて言へば所謂隱れしい恐怖を感ずる其時は肉附きもよく色も何よりヅツと白く西施小町も裸喰わん樣から美人の冠字を頂戴し(おつと垂れます涎が、アア勿體ない!)お狹山吹き日陰の桃木!幸運兒!雛形を並べた樣のなんかんで無性に煽動附けられご本人矢張りヅンと其氣になり其座に入から見ゆるのか知ら尤も妻は別嬪じやがアハゝゝ々々々恐悅がつた青春時代も戀の瀬際を一二三と飛び越へ浮世の荒波ザブリと許り白眼に沫吹いて了まへば戀も憧れも肉も覺界は性の寂しみを增す許りだア、青春!逝きて再び歸らず吾人生涯に逢遇するを得ずいつこにか影や佇めんかやだ

いゝいゝいゝいゝいゝ、春去風光不關身黄金莫惜買青春ア、

文苑

○寄戀團扇七句　多田千春

燃ゆる如き戀中ある團扇かな
つかひ憎くき團扇なりけり鏡枕
錦絹の釦口戀く團扇かな
さげて來た團扇顯はる樣の先
蚊蠅縒しに派出友染の團扇かな
何思ふすがたか團の絹うちわ
絹團扇うつむき勝ちに戀らせぬ

召使わ初　默法師

第百十七回

お察は讃んですゝ寄る、白く黃く紅く淡き種々の菊の花は、その深き香りと共に、お察の手へ下げられぬ、

「此後とも忠義の二字忘れまいぞ」

「有難うござりまする」

お察が恭々しく菊花の香り好きを戴く時、一人の侍女は澤野居間の方より來りぬ

「お察どの、これに在らせか、此方に御用と仰せられて、お廣敷御客間へ來らせの方でござりますゞ氣、疾う疾うお逢ひなさりませ」

お察は意外に驚きぬ、輕き端女の勤ひぬ身へ、事々しきお侍女衆お執次然もお廣敷お客の間に待ち合す者ありとの口上、什麼とも心得難く振向いて

「只今御口上、お人違ひではござりませぬか、私左樣に身分ある者ではござりませぬ」

「中々お年寄お道どの、お召使察どのとたに聞き違ひはない、お執次衆申させござりまする」

今は疑ふべき餘地だも無かりき、お察は富貴姫御前に跪きて

「只今お聞きの通りござりまするで、早や御暇給はりまする」

「をゝ」と富貴姫は名殘惜げに「そなた見覺ね置くぞ」

「有難う心得まする」

「何日か菊合せして遊ばう、きと參らうぞ」

「恐れ入り奉りまするど」お察は涯たる御を舉げず「お乳母樣より御前しう御禮申し上げ下さりませ」

お察は幾度か禮を述べ、又幾度か顧りて、やがて其場を去らんとしぬ

富貴姫は伸び上り〳〵うしろ姿を見入りて、小さき胸に滲々影まれたる彼女が忠義の影を追はせぬ、折柄秋の日の暮れ易く靜謐て、森に急ぐ鴉の聲、鐘くに鳴る鐘の音、花のお江戸の眞中にありながら、山奥深く分け入りたるやうに心淋しく、淋しきにつけて人戀しく富貴姫は只夢の如く立たせたり

「早や御入らせござりませ、夕風寒う御身に障あつてはなりませぬ」

富貴姫及び富貴姫に扈從する侍女共御居間へ入りたる時、お察は手に菊の花の香り好きを持ちて、お道の前へ出でたりき

「甚う遲うなつて濟みませぬ、花は早や後れでござりまするがこの菊には樣々御光り添ふてござりまする」

恭々しく差し出すを、お道は何もなく取つて、床の間に置きたる古銅の花瓶に挿したりき、お察は次の間に手を突きつゝ

「旦那樣へ申し上げねばならぬ、事でござりまする、只今お花屋敷へ參る途中これ〳〵しか〳〵の事でござりまして、樣なく澤野樣相生樣、その他お女中衆を相手、物爭ひしてござります、お相手の方々多勢お話しでござりましたち樣々御威勢、且は旦那樣御威光、敵ならぬ私身に添はせられ、思ひの外勝利得て、富座御褒美、樣々お手づから摘ませられた、それのお花頂戴仕つたでござります」と謹で復命したりき

お道ははつと驚きながら、色にだも見はさず

「[illegible]のお花、富貴姫樣[illegible]から手折らせたのであるおやめの」

「御意にござります」

「さて勿體もない」と、お道は三尺餘り座を退りて「敵ならぬ召使ひ御目通り御恩のほど有り難くお禮申しまする」

居間の外には前の侍女佇みてお察の出で來るを待ち居たりき



東京電報

▲米税引下理由

米穀關税率引下實施に就て押川農商務次官は其理由を説明して曰く米價騰貴の原因は勿論賀田一派の買占の結果に因るべしと雖も其れ以上最大有力なる原因は米穀の供給不足と認めらる即ち昨年の實收は四千六百萬石にして平年作四千八百萬石に比すれば二百万石の供給不足を告ぐる事となるを以て愈々輸入税を百斤六十四錢に引下ぐる事に決定したる次第なるが其期間を九月三十日迄としたるは新米の收穫豫想が當附く迄を期限と爲したるものにて人氣を融和する上に多大の效果あるは確信する所なり此輕減は農家に附して左程影響なき見込ありと云々

▲英獨國交危機

摩哥問[illegible]

▲東郷大將英國發

[illegible]

▲大博官制改正

[illegible]

▲大博會長任命

[illegible]

▲取調局の新設

[illegible]り左の通り任命ありたり

外務省書記官從五位勳三等　幣原喜重郎

任外務省取調局長

▲各大臣の寄附金　濟生會に對する各國務大臣の寄附金額は桂首相壹萬圓外各大臣は貳千圓の一時出金と決定したり

雜報

●米穀輸入減税

本邦政府は今回米價の暴騰を防止する爲め本年七月十七日より改正實施せられたる外國米輸入税率百斤一圓を關税定率法第六條の規定に依りて六十錢に引下げ以て外國米の輸入に便にし之に依り國内の米價を緩和せしめんと圖るに至れり果して然らば我が朝鮮米も亦是れが好影響を受くべく目下朝鮮在米不調澤の折柄なれば直に減税を利用して日本に向ひ盛んに移出せらるべくも無けれ[illegible]場の活氣を呈し騰勢を[illegible]ながらん因に朝鮮米一[illegible]なれば七月十七日より[illegible]國米輸入新税率百斤に[illegible]一石に付二圓四十錢又[illegible]に引下ぐるものとせば[illegible]十四錢なりとす

●陸軍省豫算

朝鮮二個師團設費……

[illegible]する四十五年度豫算概[illegible]陸相の決裁を經て大藏[illegible]至りたるが聞く處に依[illegible]の新事業費として豫算[illegible]は經常部に於て朝鮮二[illegible]約八百萬圓米價騰貴に[illegible]額三十一萬圓（現在一[illegible]の見積を十五圓に引上[illegible]朝鮮師團增設費は七[illegible]充實す可き計畫なれば[illegible]て要する經費は約百万[illegible]時部に於ては朝鮮二個[illegible]兵站其他の營繕費等は[illegible]使用せる物を常設師團[illegible]不足及一個師團費一千[illegible]被服量秣馬匹器具機械[illegible]調辨費約二千万圓合計[illegible]ケ年間に亘りて完成す[illegible]之亦四十五年度に於て[illegible]は五百萬圓なり其他第[illegible]十八師團兵舍が白鐵の[illegible]臨時軍用氣球研究會第[illegible]四万千三百八圓は四十[illegible]於て全部消失したれば[illegible]して百二十九万二千六[illegible]十五六年度の兩年度に[illegible]第一期研究費は六箇年[illegible]べき豫定なれば事實に於ては繼續事業なるも豫算面に於ては四十四年度に於て七萬圓を計上せるのみにして其後の研究費は議會の協賛を經ざるに依り四十五年度に於ては更に七万圓を其他臺灣軍營兵舍新築模樣替及陣營費經理部等の新築及初度調辨費三期事業として約二百万圓を四十五年度より三箇年間に繼續費を要求すべき計畫なりと

●許可鑛區坪數

總督府調査に係る本年六月末日現在各道に於ける金、銀、銅、鐵、鉛、石炭、水銀、黒鉛、砂鐵、砂金等の許可鑛區數九百五十四區にして同坪數二億六千九百二十九万三千五百三十三坪なるが今之れを各道別に記せば左の如し

道名	鑛區數　區	坪數　坪
京畿道	五四	八、八五一、六七〇
忠清南道	六三	一一、一一七、五七九
忠清北道	八四	一七、五二〇、二〇九
全羅南道	一三	二、九二七、八六八
全羅北道	一六	四、二〇七、二一三
慶尚南道	六七	二五、一〇五、二四四
慶尚北道	七五	二三、一九五、五〇一
江原道	六六	二〇、三九二、六二三
黄海道	五八	一六、三五五、一九七
平安南道	一五	三七、六四二、六二三
平安北道	二七	六三、六七〇、二六八
咸鏡南道	九五	二七、一八二、一四八
咸鏡北道	三一	一一、四〇七、八四七
合計	九五四	二六九、二九三、五三三

●鑛業事項許可

客月中農商工部に於て取扱ひたる鑛業事項の重なるものは鑛業許可願三十二、同登錄二十一、讓渡登錄八、廢業四、砂鑛許可二十二、同登錄十九、讓渡登錄四、廢業三件にして同鑛手數料收入額九千九百十一圓なりしと

●日本大陸交通行程比較

日本より西比利亞を經て歐羅巴に向ふ旅客の取るべき順路は敦賀浦鹽廻りの線と下の關大連廻りの線と下の關朝鮮廻りの三線なるが之が哩程を別示せば如左

（一）敦賀浦鹽廻り線

新橋	敦賀間	三百十三哩
敦賀	浦鹽間	四百九十六哩
浦鹽	哈爾賓間	四百七十哩

（二）下の關大連廻り線

新橋	下の關間	七百四哩
下の關	大連間	六百四哩
大連	哈爾賓間	五百八十四哩

（三）下の關朝鮮廻り線

新橋	下の關間	七百四哩
下ノ關	釜山間	百二十二哩
釜山	新義州間	五百八十六哩
安東縣	奉天間	百八十二哩
奉天	哈爾賓間	三百八十哩

右によれば第一線は午前[illegible]新橋發[illegible]五日目午前十時に哈爾賓に着し第二線は午後十一時新橋發七日目午前九時ハルビンに着し第三線は午後三時四十分新橋發七日目午前九時ハルビンに着する勘定となり（尤も現行の汽車汽船の時刻表に依る）第一線が[illegible]時は最少なるも第三線たる下の關朝鮮廻りの線は旅客の喜ばざる海路航程極めて短かきを以て鴨綠江架橋と安奉線の改築落成後は此線こそ歐亞の大道として終に最優位を占むべきは勿論なり因に哈爾賓より先は伯林まで約六千百哩此日數十日巴里まで約六千八百哩此日數十一日倫敦まで約七千二百哩此日數十二日を要し萬國寢臺會社にては第三線に付て最も歡迎しをれりと

●吉會線の延長說

清國政府にては今回の四國借款中滿州企業費の一部を割き日清協同經營に屬すべき吉會線を間島局子街より分岐して渾春に達せしめんとの議ある由にて既に東三省總督趙爾巽も同意しつゝありとの事なるが右延長計畫は勿論我國の同意を得ざるべからざる關係あると共に北滿の經營上露國と交涉するの必要あり單に交通機關整備の上よりすれば渾春聯接は必要なるも豆滿江流域に於ける我接續地として軍事上本線の價値は容易ならざるものなるを以て要するに該延長說は或は一の風說ならんかと云ふ

●教育會の總會

既報の如く教育會にては八月一日午後七時より臨時總會を開き芳賀博士の講演及餘興として講談等ある筈なれば定めて盛會なるべし

恩賜公債注意

左記の事項は恩賜公債證券に關する注意として一般の知らざる可からざる事なり

（一）恩賜公債證書は明治四十三年十一月總督府告示第四十號に示す如く總督の認可を得たるものは韓國銀行に於て額面價格を以て買上るを以て同銀行以外の銀行又は個人間に於ける讓渡賣買入に對しては認可を與へざる方針なり隨に賣買入等の契約を爲したるものには認可を與へざるは勿論其契約は無効なるべし

（二）恩賜公債下賜の辭令書を受け公債證書の交付に接せざるものは住所の判明せざるものなるに付右に速に其旨總督府總務部會計局に屆出らるべし

（三）恩賜公債の所有者にして總督の認可を得て韓國銀行に讓渡の爲め登錄除却を請求するもの多くは其手續を誤り照會往復數回に亘るもの多く或は登錄除却請求を以て既に賣買の手續を終れるものと誤解し直に代金受領方を督促するものあり左記各項注意せらるべし

（四）賜恩公債所有者にして登錄除却請求書認可書及公債證書等を區々に送付するもありて取扱上不都合なるのみならず往々紛失の原因となるを以て一括し送付せらるべし

（五）登錄除却請求書には手數料として證券一枚に付收入印紙五錢の割合にて貼付すべし

（六）住所印章等は當初總督府に提出したる公債證書の領收證書に記載捺印したるものと相違せざることに注意し若し轉居又は改印したる場合は其旨日本銀行京城代理店（韓國銀行内）に屆出べし但し改印に就ては相當官署の證明を添付すべし

（七）登錄除却請求書の記入方に就ては請求書備考欄を參照し特に額面は合計額面附屬利札は九月以降（附屬利札に付て仕拂開始せるものは除却の際添付せず別に請求するものとす）と記入せらるべし

（八）日本銀行京城代理店へ登錄除却の請求書到着したる時は同代理店は日本銀行に對し夫々手續を了したる登錄除却濟代證券（無記名證券）は便宜京城代理店より直接韓國銀行に交付すべきに付同銀行は直に之を買入其代金中より[illegible]料實費を差引き殘額を送付すべし

●大邱東萊間の輕便鐵道

韓國瓦斯電氣會社にては去月二十八日釜山府廳を經て其筋に東萊を起點とし蔚山慶州を經て大邱に通ずる輕便鐵道敷設の請願書を提出したり其内容は東萊より蔚山を經て慶州に至り同地より大邱に至るものを本線とし慶州より浦項に至るものを支線として此工費總計二百三十萬圓本支線を通して哩數百八哩にして三期に分ちて起工せむとする計劃なりと

●王世子の晩餐會

李王世子殿下には三十一日午後五時より德壽宮石造殿に於て李載覺、閔長官、小宮次官及鮮人貴族十數名を招き晩餐會を開かる

●總督府と嚴妃葬儀參列者

嚴妃の葬儀は愈々來二日執行さるゝ事となりたるが總督府よりは國分人事局長參列すべしと云ふ

●寺内大尉夫人逝去

總督令息歩兵大尉寺内壽一氏の夫人は卅日早朝東京に於て急性腦加答兒に罹り逝去されたるが夫人は得能通昌氏の令嬢にて享年廿二なりといふ

●總督邸の弔問

別報の如く總督令息壽一夫人逝去に就き三十日同官邸に日鮮文武官及朝野紳士の弔問頻々たり

●總督夫人東上

寺内總督夫人には三十日午前五時令息壽一氏夫人百合子氏の急性腦加答兒にて逝去の急電に接し三十一日午前九時南大門驛發列車にて野中佐及和田試補を隨へ東上の途に就く停車場には文武官夫人の見送り盛んなりし

●朝鮮貴族會の目的

尹德榮侯李完用伯趙重應子金宗漢[illegible]の兩男等五名の貴族主唱となり朝鮮貴族相互の親睦品性の陶冶を圖り貴族の體面を維持すべき目的を以て今回新たに貴族會を組織せんとし寺内總督を經て目下宮内大臣の許可を申請中なるが何れ近々許可を見るべく會則は十一ケ條より成り内地華族會館の組織に倣ひ會館を設け會館は北部齋洞の漢陽倶樂部に當分設置すべしと云ふ

●憲兵分遣所長會議

京城第二憲兵分隊にては管内分遣所長會議を八月一日より開會當日は松寺檢事正の訓示及び諮問ある筈なりと

●仁川電氣會社總會

仁川電氣株式會社にては三十日午後一時より民團樓上に於て總會を開き上半期決算を報し配當率年四分と決定し直ちに役員の改選を行ひたるに孰れも重任となり同三時閉會せり

●熊谷氏と記者團

京城記者團は今回平壤民長に任命されたる元國民新聞特派員たる同氏の送別會を二十九日夜眞千閣に開く參會者は各新聞通信記者の全部にして始めに峰岸本社長の送別の辭あり次に熊谷氏の答辭あり了つて各歡を盡し散會したるは午後十時なり

●鮮人牧師觀察團消息

京城青年會の招待に係る朝鮮人牧師内地觀察團の一行三十名は去る三十日大阪に到着三十一日同地觀察を爲し更らに奈良に向ひ同地一泊の上愈々明一日東京に向ふ旨通知ありたり

●故梶原大尉の紀念祭

八月一日は第二協約の際暴徒鎭撫のため南大門にて戰死したる梶原大尉の第五週年に相當するを以て紀念碑を建設しある南大門小學校にては同日紀念祭を擧行する由なり

●京城水道斷水

別項記載の如く水道鐵管修理工事は晝夜兼行の有樣にて修理を急ぎつゝあり檜垣道長官阪出總督府土木課長有賀道内務部長鈴木技師等は三十日午前破損の現場に出張し實地視察を遂げたるが破損の個所は約三尺餘なるも右は作業困難なるを以て三ケ所に堰止めて水勢を防止し次で第三の堰止めは僅に土を入れて河岸に伴ひ半圓形に包み仁川より雇入れたる潛水夫をして排水に從事せしめ居れるが元來損所附近は砂地なるを以て潛水多く一尺餘の貯水は到底排水し得ず止むなく鐵手の場所をズックにて包める木箱にて圍み漸く水無き箱中にて作業をなし又十分嵌入せる鐵手に鉛を注ぎ更に又其他破損せる鐵手等は職工及潛水夫をして水中に於て固く緊縮せしめ居るが斯くして送水を試み若し異狀なくば三十一日夜中には無事通水を見るに至るべき豫定なりと

●水道故障眞相

這回の水道斷水は水源地纛島を距る約十丁纛島川の河底に埋設しある鐵管の接續個所が折柄の豪雨の爲め之れが水勢と水量に堪へ兼ね離脱せしものにて最初發見せし時は水柱河面より約五間程噴騰し見るからに偉觀を呈せしといふ依つて京畿道廳にては晝夜兼行にて應急工事に着手すると同時に一方前回斷水の時の如く韓國鐵道管理局に交渉し龍山鐵道局專用水道との接續を圖り更に一方南山老人亭の天然水を供給しつゝあるが漸く三十一日夜遲くか今一日中には給水の運びに至るべしといふ尚最も此際の爲めとはいへ一ケ月中に斯く二回迄も破損を來す原因に就ては水道開通以來相當年數を經し爲めに鐵分鐵管に故障を生じ居るに依るべけんも一は前經營者たる英人が營利事業としての性質上殊々工事に重きを置かざりし結果ならんともいふ

●木内氏出發期

前農商工部長官木内重四郎氏は來三日頃當地出發東上の筈なりといふ

●敍任辭令

總督府道技師山本小源太氏は全羅南道在勤を命せられ濟州區裁判所判事高橋四郎氏は慶州區裁判所判事に永同區裁判所判事命項泳氏は永興裁判所判事に何れも補せられ總督府鐵道局技師池田賢藏氏は鐵道局建設課勤務を命せられたり

●澤代議士の來鮮

過般朝鮮視察として仙臺を出發したる宮城縣選出國民黨所屬代議士澤來太郎氏は近々入京すべしと

●川上工學博士の入京

工學博士川上新太郎氏は總督府の依囑を受け水道工事に於けるポンプの狀況調査の爲め廿九日夜入京したるが三十日は京城水道の損所を調査し卅一日朝平壤に向へり

●城津鮮人の日語講習

咸鏡北道城津郡の有志者等は裁判所及び金融組合の通譯生に依賴し毎夜日語の講習に勉めつゝありと

●牛疫血精所近況

九月上旬より建築工事に着手し十一月上旬には落成の豫定なりし慶尚南道岩南牟島牛疫血精製造所建設準備進行を聞くに門奈農商務省技手監督の下に二週日以前より土工に着手し目下着々進行中なりしと云へば豫定通りの竣工を見るに至るべしと

●倭館日人土地面積

京釜沿線の倭館附近に於ける日本人所有土地面積を倭館學校組合にて調査せし處に依れば水田にて一千四百十九斗落宅地三千〇三斗落山林八百五十二斗落なるが所有人の重なるものは釜山桧原榮吉山内清三郎大池忠助等五六名なりと

●石油タンク新設置

ライジングサン及スタンダードの兩社にては運輸の便宜上慶尚北道倭館に石油タンクを設置せんとの計畫にて同地學校と洛東江岸阜頭との間に選定し目下其筋へ認可申請中なりと

●官選辯護人旅費支給

裁判長の職權を以て辯護士を辯護人に選任[illegible]其辯護士が裁判所所在地外に居住する者であるときは六等以下の高等官に準じて旅費を支給すべしと

●滿鐵會社の陶器製造

滿鐵會社中央試驗所にて同所附屬耐火煉瓦工場の開設に伴ひ其副業として支那人向日用食器を陶器にて製造すべく決定せりと

●熊谷氏の送別會

官民有志の催になる平壤府長熊谷直亮氏の送別會は三十日夜花月にて開かれ來會者七十餘名中々盛況なりし

●甘藷栽培に付て注意

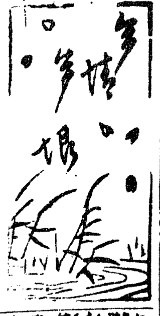
京畿道内務部長は連日の降雨に由り曩に配付せる甘藷往々蔓の各節より根を伸長せるもの少なからず其儘に放任するときは甘藷の收量著しく減少するが故に適當の手入を成す樣各郡守へ通牒せり

▲京城手形交換高▼

七月	金高	枚數
二十九日	一二八、五八八、八九〇	六六〇

▲治外法權▼

民團制廢止後の自治体問題に關し、各民團所在地の輿論が大分喧しい樣だ、ソレも其筈、自治体の全滅は直ちに吾在住内地人の、大々的不幸となるからだ▲一体民團制の廢止すべきことと、ソレに代るべき自治体を置かざるべからざることとは、判り切つた話だ、而るに總督府が併合一年後の今日に到るもグヅグヅで通して居るのは氣の知れぬ話で、各民團所屬の内地人が心配の餘り喧しく云ふのは尤な話だ▲トコロで仄かに聞くに總督府では、本問題に關し、昨年以來石塚取調局長官をして調査研究を爲さしめ居るのだソウだ、併し悲しいことにはまだ、コレと云ふ案が立たぬ、アノ民團廢止后の自治体、ソレ程六ケしいものか▲扨て人氣取りに妙を得た野田平の朱業暇が、今度中樞院の顧問を辭したのはヤツパリ人氣取りの爲だ、トコロへ彼れの子分金時鉉が鴨綠江へ身投げをして、益々人氣を煽つた、アー羨むべきは野田平の人氣だ▲鴨綠江の水運事業へ内國通運が眼を着けたのは結構な事だ、トコロで該事業には大坂の[illegible]會社もトウカラ眼を着けて居る▲我京城の斷水、コウ度々では恐縮の至りだ、併し鐵管の破裂は鐵管其物の罪で、ドウにも仕樣がないとは水道係の辯明だソウだが、ナル程ソウかも知れぬ、併し鐵管は元々舊韓の物ソレを毀かふ有物の監督者が、破裂の罪を獨り鐵管に歸して得々然として居るのは言語同斷の話だ▲釜山の水產會社は同地漁港の一手使用を其筋へ請願中だソウだ、思ふに此は多數漁民の幸福を害す、總督府は決して認可すべからずである。



京城 藝妓の半生
清華亭 政菊（二）

藝を賣るに非ずるよりは生殖器に依頼するの外に生存の能力無き彼れは今其の旦那に見放された再び昔執つた杵柄を握つて覺束ない乍らも三筋の絃を辿らざる可らざる運命に逢着した、併し夫れが浮氣の祟りとあるからに神戸では流石に外聞が見つとも恥かしいと云ふので河岸を變へて一稼ぎと考へてる所へ打つ附つたのが清華亭の女將、一切萬事契約も整つて渡鮮したのが四十二年の四月今の名で「へエ今晩は」と現はれた當時の花柳界殆んど官吏の獨占團樣であつた政菊も又時の內務次官岡喜七郎君の有となつたから平民連は指も差せなかつた、とは表面で秘密では指どころだ手が不思議ではなから現在當時の統監秘書官男爵佐竹義準君の如きも岡君に擬捫面に手を出して飛んだ稍當を演じた事もあつた相だ名古屋山三の役回りは申すまでもなく男爵の御前であつたと推測する、と又此所に一人の惡戲者が現はれて此の渦中に飛び込んだのが鐵道團の谷口技師であつた三人入亂れての大競爭、此の時此の際に於て後の勝利の何人に歸すべきかは逆睹すべからざるものがあつた、然るに間もなく、谷口技師は休職となり岡次官は鳥取縣知事に轉勤した、斯うなりや神奈川の久兵衛さんメ手のウーサウサ、濡手で粟と掴んだのは佐竹伯爵で此の分で行つたら當分政菊は佐竹君のものと思ひきや曾禰統監は病の故を以て閑職に就くこととなりしより之れに代つて第三世統監となりしは即ち現總督閣下たる寺內伯爵であつた、伯爵統監として任に就かるゝや、戒嚴令は花柳界の一角に布かれた事茲に至つては佐竹君も折角ながら確實に占領した政菊を捨てなければならぬことになつた、其の當時の君が心情を推量すると一掬同情の涙なきを得ない次第である併し翻つて此れを見れば決して遺憾とすべきでない抑て寺內閣下に感謝すべきである之れに依つて一家の平和は以前より以上に增進され財囊はより以上重くなりつゝあるではないか一婦を捨てゝ一家を完全に保有せる足下は又多幸なるかなである現在は本町一丁目の少壯實業家商業會議所議員の某とお安からざる關係がある相である（これ以り）

●七月分給水料

下の如き投書が來た、市民一般の聲と認めるから掲載する。

ア、又斷水だ聽けば大官連の宅へは今朝（三十日）からチヤンと知れて居るそうな、我々平民の情け無さ水道栓を開けて初めて吃驚した、夫れで居て

一金何圓也

七月分給水料

七月三十一日迄に京城本金庫へ納付すべし

歲入收入官京畿道長官檜垣直右印

少しも前月と變りない、變りないとて決して之れを減けて貰いたいとは云はぬが湯屋の如き業態の家へは損害の賠償をしたか、給水なかりし爲めに三日も休業した所もあるぢやないか、イヤ先日の貴紙上には損害賠償の調査は完了したから近日發表されると報道してあつたが何處で聞いたのか誤報だ、乾度當局の一時逃きの言を眞實にしての報道に相違ない牧畜業者即ち牛乳搾取業なぞは非常に閉口してる乳價に影響すると云つてるぞ嘘だか眞實だか知らぬが、其他病院でも料理屋飲食店でも悉く嘆して居る全体何日になつたら完全に通水するのか聽聞に知たいものだ（エッチ、オー生）

●闇取事件の公判

▽言渡しは八月七日　井上香濃亀井頭淀等の闇取事件の上告は京城高等法院刑事部法廷に於て三十一日午前九時渡邊法院長裁判長となり岩野牧山鈴木石川の四判事陪席關檢事立會の下に公判開廷せられ上告代理人辯護士高橋章之助氏並に大島辯護士原田隆弘氏出廷辯論開始せらるや原田辯護士は上告趣意に基き人點を論じ高橋辯護士は三點を擧げ痛快に論じ關檢事は之等に對し逐一明白に辯駁し上告棄却の論告ありて午前十一時半閉廷したり言渡は來る七日に決定したり

●吝と極つた金貸業

▽女房の櫛や笄を差押　明治町二丁目七十五番戶居住金貸業大滿佐太郎は目下本町五丁目口入屋松屋滯在上山きの（二三）を六月十五日影山房吉古川某の媒介にて內緣の妻にしたるが七月十九日協議離緣せしに結婚當時金八圓を貸與へ置きたりとて離緣に際し該金返濟を求め抵當として櫛行李保管中なりしが其後きのは佐太郎の承諾なくして持ち出したりとて京城區裁判所に告訴提起したるより野田檢事取調の上間拔けな告訴とて不起訴處分せられたり

●朝鮮日報支局長禁拘さる

▽罪名は恐喝取財　廣島縣人當時明治町二丁目居住吉田松太郎は滿韓日報京城支局長として支局經營中に朝鮮日報法政記者京城支社長の名刺を振り廻し盛んに活動中なりしが今般恐喝取財として其筋に檢擧され京城地方裁判所長尾檢事の手にて起訴豫審に付せられ三十一日午前令狀の執行を受け未決監に拘禁せられたり

●鮮人の自殺　京城府龍山面新孔德里十七統九戶ノ三人夫業李興五（二三）は數年前より精神に異狀を呈し時々狂態を演じ居りたりしが數日前より更に病勢昂進せし爲め家人は只管注意中廿八日十二時廁へ行くと稱し孔德里抄掌洞三十八統戶李光汝所有の畑中に至り自己の締め居りたる細紐を以て頸部を卷きたるも絕息せざりしを以て更に小刀を以て咽喉を突き自殺を遂げたり三十日午前六時頃前記畑中にて死体發見せられたるより檢視の上同人實父李光汝に引渡されたり尚同人は三才の時一度死亡し柩に納め墓地に運びたるも後蘇生したる事あり爾來癲癇病時々發作し一ヶ月四五回に及ぶことあり家人は常にも大の注意を拂ひ居りたるに近時精神狀態の益々不良に趣きたるものなり

●仙友會の設立　天然禪宗、清水[illegible]諸氏の發起となつて美術品鑑識力發成の目的を以て標記の如き會を設立し毎月一回例會を開き席上揮毫等あるべしと會則は第一回發會式當日に於て制定すべし而して初會は八月六日（第一日曜日）に開會したしとて目下有志糾合中なるが重なる申合せは會費は一圓以內（但し初會は一圓五十錢の豫定）にて繪本書並に席上揮毫書の籤引等あるべく尙會員は書畫骨董三品特寄入札を行ふ筈なりと

●龍山本願寺の佛教講話　京城別院に於ける三日間の講演にて數多の聽衆を感動せしめたる大谷派本願寺特派布教使平松理英師は開城、鎭南浦等北朝鮮の巡廻布教を終へ八月一日午後十時十分龍山に來着二日午後二時龍山桑町東本願寺における同寺法話婦人會臨時大會に臨みて佛教講話をなし同日午後八時同所にて一般公衆の爲めに同師出演の講話會を開く筈なれば續々來聽あらん事を希望すと

●花見中を御用　福岡縣人當時櫻井町五十番戶宮地淸次（三七）及內緣の妻德永なを（三五）舊路通り篠原德太郎內緣の妻德永ちど（三六）大分縣人當時本町八丁目中根圓太（四六）の四名は二十八日午後十時頃賭博の現場を檢擧され南部署に取調中

●ピシーサビシリ　裴律善（三〇）李德元（三五）金百元（二八）柳基運（三二）の四名は賭博の現場を檢擧され笞刑處分を南部署に於て執行されたり

◎戲作十句　多田千春

△上戶の郭公

德利と討死したり時鳥
時鳥三里酒屋へ二度の使者
火の消へて煙のさめたり時鳥
いり豆の獨酌やすし時鳥
氣の合ふてのみ明しけり時鳥

△下戶の郭公

茶の過ぎて眠れぬ夜半や時鳥
雨しと〱餅を焙りて郭公
時鳥湯は鐵瓶にたぎりけり
茶ばなしは馴れた者なり時鳥
時鳥句せめに逢ふて戾りけり

●遺失　仁川仲町二丁目井上保太郎は去二十九日午後七時頃より三十日午前六時頃迄の間に於て銀側懷中時計及附屬代二十一圓九十錢を紛失し屆出づ

●取消　左の如く申込ありたり

謹啓暑夏之候貴社益御隆盛之趣奉大賀候偖て去る七月十九日附所載小娘に遇せる記事中娘は右に關せる事項は事實無根の事にて非常に迷惑致居候間此之文御掲載の上御取消被下度此段及申込候也明治四十四年七月卅日　仁川宮町三丁目小松ひろ　京城新報三面記事部係中

●喧嘩　廣島縣人當時本町六丁目五十番戶平岡平一（二七）は西部冷洞百八十九統六戶李鳳瑞（二五）と果物賣買上より口論の結果にて李の頭部に負傷せしめ南部署に引致され目下取調中

▲宅支店の女禁制▼　宅合名會社仁川支店で以先從來より女禁制と云ふ頗る奇拔な規約を作て勵行しつゝありとか若し規約に違反した者は過料金として一圓乃至二圓を徵せらるゝので最早過料金の徵收が數十圓に達したので近々の中に過料金で舟遊會を催すと云ふ同規約とは店員の誰彼を問はず女と一緒に步行し又は青樓に登り□事實發覺せし時は必ず徵せらるゝ事とし夫婦連れにても同樣なれば店員中上城君が若い妻君を持て居るので一番過料金が多いそうだが今後は一層勵行する筈なれば何人にても密告せし者には相當の報酬を呈すると云ふ但し五日間後は無効なるべし

●仁川大角力初日　待ちに待たれたる仁川に於ける東京大角力の興行は八月二日乘込み三日を初日に晴天二日間興行の事に決定せりと前景氣の素晴らしきに今は天氣も定まりたれば其の氣乘りも一層なりと

●演藝だより

▲松旭齋天二　奇術界の妙手松旭齋天一は本春以來病に冒され全く藝術界を退くに至りたるが同人は豫て一度は渡鮮の上花々敷興行する希望を懷き居りたることとの今は全く望みなきを遺憾とし十ヶ年來滯歐の上新奇術の研究練磨に從ひ居りし新歸朝者松旭齋天二を近々渡鮮せしむる都合なりとか

▲龍山座　歌舞伎座に於て興行中なりし借の家一行の二〇加と曾我の家一行との合同劇は三十一日限り當地打ち揚げ八月一日より龍山座に乘込み初日の藝題及び重なる役割左の如し

三重島蠶二場、西洋洗濯四場、れ染久松野崎村三段目二場、妾宅二場、ヤモメ勝助、れ染（東蝶）久作娘れ光（尾半）久作、銀行員松村（小半）番頭小助、婆れとら（團二郎）盜人次助（重忠）妾お辰つ（奴）

▲壽座　木村猛夫劇特の壽婦劇「狹間殿」にして衣裝は三越吳服店飾棚中に陳列のものを用ひ大車輪にて演ずべし重なる役割左の如し

女房れ幸（君子）召使孝二（澤井）園山（三好）家令松下（寺田）園山擧攝（福澤）大工甚五郎（桃井）壽婦れ嬢れ高惡漢龍鼠、家令森山（木村猛夫）

▲浪花館　連夜浪花亮賑一行の浪花節

平民文庫

▲[illegible]は朝鮮人も支那人も[illegible]鮮人又は桶を埋けて之れにタメハハから三五年前の樣に溝渠に汚穢物の土左衛門の浮動するのを見ることが殆んど無くなつた然るに意外とも意外西小門通りに住む外國人の處の溝渠內に時々夫れが浮動してることを見る何うした事かと注意して見たら所那內から還せる土管から排泄せらるゝのだと判明した使用人の橫着からかも知れぬが既に角彼の人のれ國では即ち夫れで實しからうが朝鮮では未だ夫れでは困る優良國民たる自己の品格を保つ上からでも居住區法令は實行されたい（通行實見子）▲假令其の附近に住むで來た實見の光榮を擔はないが、どすれば使用人の橫着だらう（係）▲鐵原の吉田才一郎と云ふのは大切な妻を虐待の上離緣して政子と云ふ評判を引へ張り込んだとか云ふ記事は事實が判り兼ねるから沒とす（係）▲大分赤痢が流行しかけて來た賣藥位で胡魔化しては危ない早く醫師にかゝるがよい（命惜生）▲角力は段々勉強して來た中實りの御禮の爲めだらうでも半分値になつた御禮の錦繪でも軍配（喜悅生）▲私は一出版業者ですが朝鮮新聞が大相撲の勝負附けを附錄として京城で印刷して配布する如ですが法律上差し閊ないでしようか無いとすれば私の雜誌でも朝鮮附錄を此方で刷つて出さうと思ひますが（れ尋ね生）▲夫れは不可ません朝鮮新聞のは仁川から刷つて寄越すのです（小僧）▲仁川本町通りの高等淫賣屋は近頃大變景氣で表通りへ欄干を構ね艶な姿で身を晒して居る母は元三ヶ濱とやらにて〇〇〇をして居たとか今では娘三人とも人の生血を吸て居る（實見小僧）▲名

堅牢無比 鶴屋式木履

けて蚊娘と云ふ（小僧）▲仁川警察では給水桶に蓋を爲す事を強制的に命令したは好いが其の結果は細君達の不平となつたと云ふのは鮮人奴が橫着で從來でも桶に八分目位しか水がないのに今度は內蓋をしたので六分目位しかない而も蓋が不細工と來て居るから矢張り塵は這入るのだ夫れでは隨分高い水に成て仕舞ふ一層の注意を望む（製氷社同人）▲京畿道管內の重なる農營者と云ふ新聞を見た處が何處の馬か調べたか不知が京畿道管內に一萬圓以上投じて經營して居る者、外に澤山有る縣の東拓京城勸農會社素砂路農園水色の牧農場富平の松尾農場開墾の農園等にもまだ澤山有るから調べて新聞に出す位の熱心者で有るなら事實の經營者を調べて列記せよ（京畿道農營者）▲去る廿三日京畿道[illegible]各[illegible]任の意見交換の際一寸傍聽した處が京畿道路の[illegible]九中氏の意見では到底〇〇〇〇又は主任技手として技術に乏しい似を抱だ（傍聽者）▲農商工部の山崎技手は判任官の一給体に御座候但し農學校三箇年修業の結果に御座候（農學士某）

●貸家　貸金制の最も便利よき所　右御入用の御方は大和町一元軍司令部通大和俱樂部內辻伊重迄

名士貴婦人訪問記

松溪生

濃淡の別也（林田龜太郎氏）

俳優用の化粧品と、素人用化粧品との差は、一言以て之を掩へば、曰く濃淡の別である。俳優は各種の役々に扮裝するの必要上、時に或は顏面の素質をも全く沒却せざるを得ぬを以て、厚化粧即ち俳優の生命である。之に反し素人の化粧なるものは、所謂身嗜みに止まるを以て餘り厚きに失する時は、遂に醜人に伍するの嘲りを免れざるのである。蓋し人の美は人爲的である、素人の美は飽迄も自然を發揮するに止めねばならぬ。巴里婦人は粉粧を以て天下に誇りつゝあるものであるが、一日倫敦に到り英國婦人に接するに及んで、要等今日の粧は英國婦人の自然美に及ばずとの嘆聲を發せしめたりとの話がある、比を我國に求むれば倫敦婦人は東京式で巴里婦人は昔の西京式である、吾輩は斯う云ふ事には至つて智識が無いのであるから此の位で其の意のある處を察して貰ひたい。

貴夫人女學生の化粧に就て

▲寺島伯曰く俳優の舞臺に於ける化粧と婦人が家庭若くは交際場裡に於ける化粧が兩立するものなるや否やといふ問題は頗る興味ある問題である、吾輩は必ずしも兩立せずと斷定は下さないが、事實上自ら兩立するものではあるまいと思ふ、俳優が舞臺に於ける化粧は光線の關係や遠見の美を衒ふ爲め厚化粧を凝らすことを常とするも普通の婦人が此眞似をしたならば忽ち目引き袖惹き宛然役者の樣だと許せらるゝのである 是は日本も西洋も同じことで要するに一は繪畫に於ける青綠山水の如く一は淺絳山水の如く貴婦人の化粧は淡彩を貴ぶべからざる事實であらうと思ふ

△嘉悅女子商業學校監督曰く女子教育者としては外面の化粧に重を措かず心の美が形の美となることを理想として居りますから化粧は成る丈け薄化粧に止めるがよからうと思ひます頭腦の出來た女子は俳優の舞臺化粧などに釣込まれる樣なことはない樣ですが無教育の女子は動もすれば俳優利用の廣告に引付けらるゝ人もある樣ですから私は女學生の變化粧は常に成るべく簡短に且つ薄く嗜み丈けのことにして自然美と心的美の調和を保たしめる樣に勉めて居ります。

●村井弦齋氏の化粧談

平塚驛を南に約二丁の松林中に一萬餘坪の形勝の地に瀟洒なる別莊構へ松風軒を繞り涼味津々たる裡に球戲場もあれば圖書室もある。是れなん曩に報知新聞の家庭小說を以て淑女紳士方や、孃樣若樣方の大歡迎を受けて成功したる村井弦齋君の居である。記者は君の化粧品に對する意見を叩くべく刺を通じたところ快く其室を引いて左の如く趣味ある談話を試みられた。

如何にせば最良なる衛生的化粧料を得らるべきかといふ問題は、私も多年醫學の爲め博士や學士若くは專門家の意見を伺ひ、又各種の材料を取寄せて研究しましたが、未だ解決するまでに至らないのです。併しながら私の研究中の見地から申しまするに、先づ皮膚の衛生といふ上から云へば、糠を基礎として精製した洗粉が、一番理想に近いものゝやうに思ふのであります。それで今日の所で洗粉と石鹸とを比較して、孰れが皮膚の營養を保ち、脂肪を去り血液の新陳代謝を盛んにし、肌を滑かに且美白ならしむることが出來るかと云へば、無論洗粉の方が良いのです。洗粉と石鹸の比較論は殆ど其舞臺を論ずる余地はないに極つて居るのです。併しながら洗粉に種々樣々のものがありますから一樣には發表は出來ませぬが石鹸と比較すれば假令五圓十圓の價がある石鹸でも皮膚の衛生を保つ上には多くは危險である。今石鹸を化學的に分析したならば或は游離脂肪存在若くは刺激性の混合物のあることを證明するのであります。偖る關係からして現に早稻田の大隈伯の所では化粧料として石鹸といふものは一切用ないやうに聞て居る又皮膚病專門の加藤ドクトルは冬期病人を診察した后で一旦石鹸で洗ど其儘に措かないで、スグ「リスリン」を塗て一面には皮膚の營養を保ち一面には皺胝の豫防をするさうであります。如何に石鹸が刺激性の包含物を含んで居るかといふことは海岸地方を旅行するとスグ解る。即ち清水の乏しい鹹水を含んで居る井戸の水で頭を洗ふときに石鹸を使ふと忽ち毛髮が棒のやうになつて、其不快は實に言語に絕する位であります、此の場合に洗粉を用ゆると滑かに納まるのです。是等は畢竟其包含分子が鹹水に抵抗しない特性を持つて居る偶然の關係でありませうが、現に角洗粉と石鹸の審最は、是等を以ても證據立てることが出來ます。要するに私は衛生的化粧品としては、糠や澱粉の如きものを基礎として精製したるものが最も良いやうに思ひますが、クラブ洗粉の如き成功したる化粧品が今後益々此の方面に向つて私の理想的研究を加ふる方針を御執りになることは、私の最も賛成するところであります。

●尾崎東京市長夫人の談

空は曇れどソヨと吹く五月の風に漲るが如き新綠の間を縫ひ品川東海寺裏の尾崎東京市長の邸にテオドラ夫人を訪ね其化粧談を求めしに左の如き趣味ある批評を試みられた

婦人の化粧は勿論容美の點でありますが、是れに就て科學的のお話を致す事は六づかしい事ですが、自分の考へでは凡て婦人の化粧は原則に於て身分相應と云ふ事が肝要と思ひますので、即ち貴婦人は貴婦人らしく、令孃は令孃らしくして、かりそめにも俳優の舞臺顏などに擬れない樣にしたいと思ひます世間には教育の程度にも依りませうが、俳優を眞似てコッテリ厚化粧をなさる方も往々ある樣ですが誠にあれは見惜いもので西洋でもおある人が之を見ると大變笑ひます西洋では自然美と人工美の調和と云ふ事に重きを置いて居る樣です、それで自然美と人工美の調和は何に依て得らるゝかと申ますれば淡化粧に依り保たれますと同時に其品質は衛生的觀念が伴つて居るものでなければなりませぬ、成程佛蘭西の製品などには品質の上等なものは澤山ありますが是れは生活程度に從つて用ゐらるべきもので一般に用ゆる事は六づかしい樣です、此點から見ますとクラブ白粉クラブ洗粉は私共に取て身分相應と云ふ事も衛生經濟にも適ひ且つ使用後の心神快感と云ふに云はれぬ味がありますから私は內國製造の白粉洗粉では尤も理想に適つたものと思ふて愛用して居ります